

論文の体裁

(120602 版)

【最初にお断り】

1 ここでは、注は文末に一括掲載する形をとっている。したがって、章ごとの後注や、ページごとの脚注の形はとっていない。指導教員にどの方式にするのがよいのか尋ねてみなさい。

2 以下では、文献表記の基準としたものは MLA スタイルであるが、日本語で執筆される論文へこのスタイルを応用するため、スタイルに沿わないものも含まれる。

【目次】

- 1 直接引用の方法
- 2 引用文献表
- 3 出典の表示
- 4 注について

1 直接引用（他者の議論を言い換え・要約せず、元のテキストのまま引用）の仕方

（ア）独立引用文の場合。長めの引用をカギ括弧で囲まずに、本文との間に上下一行の余白を空け、行頭は全角 2 文字分の余白をとる。

【例】

だから、ゴールドマンが繰り返し言うように、主要な登場人物は役者の本質をその造形に内在させているのである。次の文章を見ると、耐え難い圧力がかかる対象が、初め「登場人物」であるが、次に「役者」、最後に「登場人物としての役者」と変化している。

プロットは、登場人物を耐えがたい状況や挫折に晒さねばならない。その目的は彼らの自己定義を崩壊の危険に直面させることにある。（中略）あたかも役者の凄さは彼にアクションの圧力かけることを通してのみ、我々に伝わるかのような、また、あたかもすべての自己認識を汚し、第一に我々を劇へとその同一化へと惹きつける基本的な人間的混乱が、同一化を生じさせるためには再演されねばならないかのような。いずれにしても、登場人物としての役者に彼の構築された自己を破壊する危険を犯させるアクションがなければ、彼の自己定義の跳躍は観客にまで拡張されない。

(133)

登場人物でもあり、また役者でもあるというこの曖昧性は、ゴールドマンの演劇論の中心から来る。観客は、登場人物と役者の両方を見ているのであるから。そして演劇を胚胎する根源は、人間が演劇的動物であることを示しているのである。

【注意】：上の例で独立引用文のあとにおく句点（マル）とページ数の前後関係に注意すること。句点の後にページ数をカッコ書きで表記する。

(イ) 自分の文（センテンス）の中に、カギ括弧（「 」）で囲んで引用する場合。次の例に倣う。

【例 1】

また、グラヴィル＝バーカー(Harley Granville-Barker)世代の教養と趣味は、メロドラマを低く評価するが、そこには演劇性の喪失があるとベントリは述べる。『ドラマの生命』のタイトルが示すように、彼の目的は「劇の生の経験」(3)を明らかにすることである。

【例 2】

- (正) 「交換される」(123) とマルクスはいう。
 (誤) 「交換される」とマルクスはいう。(123)

2 引用文献表 (bibliography)

■はじめに

1) 以下は MLA スタイル (とその思想) に倣っている。MLA スタイルは文献を表記する唯一の方法ではない。多くの学問分野は独自の文献表示(documentation)のシステムをもっている。MLA スタイルは他の文献表示のシステムに比べ、よりシンプルである。他の文献表記法との共通点は、本文中に置かれた「出典の表示」(parenthetical reference、文字通りには「括弧付き参照」)によって、論文末尾に置かれる「引用文献表」(works-cited list)を参照させる方式を取っている点である。このスタイルは人文学諸分野で広く用いられている。以下ではまず、「引用文献表」に記載する文献の表記法について述べ、その後、「出典の表記」の仕方について述べる。MLA スタイルの詳細については、Joseph Gibaldi, *MLA Handbook for Writers of Research Papers, Sixth Edition* (New York: Modern Language Association of America, 2003)、翻訳版はジョゼフ・ジバルディ『MLA 英語論文の手引』第6版、原田敬一監修、樋口昌幸訳編 (北星堂書店、2005)、を参照のこと。

2) 引用文献表に含める文献は、論文の中で言及、あるいは引用したものに限る。自分が

読んだ文献であっても、言及・引用していなければ含めてはならない。

3) 記載された文献の例を注意して見ること。文献例について、スペース、コンマ、ピリオド、読点、二重カギ括弧、マル括弧なども含め、声に出して読み上げてみるとよい。

4) 英語文献の場合、「ラストネーム」が最初にくる。その後、「コンマ」、「半角の空白」、「ファーストネーム」、(もしあれば)「ミドルネーム」と続く。

【例】 Berlage, Gai Ingham. *Women in Baseball: The Forgotten History*. Westport: Greenwood, 1994.

5) 英語文献におけるラストネームとファーストネームの区別のつけ方： 本や論文の表紙に書かれている著者名は、「ファーストネーム」、「ミドルネーム」、「ラストネーム」の順番で並んでいる。だから、最初がファーストネーム、最後がラストネームです。英語文献の翻訳でも著者名はこの順序で書かれている。

【例】(本や論文の表紙には) Gai Ingham Berlage. *Women in Baseball: The Forgotten History*

【例】(洋書の翻訳本では) ウンベルト・エコ『論文作法』

6) 日本語では読点(、)を使用。英語ではコンマ(,)とピリオド(.)を使用。日本語文献の表記にコンマを使ってはならない。またその逆に、英語文献の表記に読点を使ってはならない。

【例】(良い例) エコ、ウンベルト『論文作法』谷口勇訳(而立書房、1991)

【例】(悪い例) エコ, ウンベルト『論文作法』谷口勇訳(而立書房, 1991)

7) 注(note)での文献表記の方法は引用文献表(bibliography)とは異なるので注意すること。例を示す。

【引用文献表】では、Frye, Northrop. *Anatomy of Criticism: Four Essays*. Princeton, Princeton UP, 1957. 即ち、ラスト・ネーム→コンマ→ファースト・ネーム→ピリオド→書名→ピリオド→出版地→コンマ→出版社→コンマ→出版年→ピリオドで終わり。

【注】では、Northrop Frye, *Anatomy of Criticism: Four Essays* (Princeton: Princeton UP, 1957), p. 45. 即ち、ファースト・ネーム→半角スペース→ラスト・ネーム→コンマ→半角

スペース→書名→半角スペース→括弧開く→出版地→コロン→半角スペース→出版社→コ
ンマ→出版年→括弧閉じる→p→ピリオド→半角スペース→数字→ピリオドで終わり。

■引用文献について各情報を記載する順序

a) 本の場合

- 1 著者名
- 2 本の一部のタイトル (アンソロジーの場合、以下の C. S. Lewis の例を参照)
- 3 本のタイトル
- 4 編集者、翻訳者の名前
- 5 使用した版
- 6 使用した巻数
- 7 シリーズ名
- 8 出版地、出版社、出版年
- 9 ページ (本の一部を取り上げる場合)

【例】 エコ、ウンベルト『論文作法』谷口勇訳 (而立書房、1991) (最後に読点なし。)

【例】 澤田昭夫『論文の書き方』(講談社学術文庫、1977)

【例】 鶴見和子・川田侃編『内発的発展論』(東京大学出版会、1989)

【例】 小笠原欣幸「ハロルド・ラスキの「同意による革命」論」『イギリス社会主義思想史』都築忠七編 (三省堂、1986) : 193 - 218

(上は、論文集や編纂された本で、そのうちの一部を利用した場合)

【例】

フライ、ノースロップ『批評の解剖』海老根宏他訳 (法政大学出版局、1980) (Frye, Northrop. *Anatomy of Criticism: Four Essays*. Princeton, Princeton UP, 1957)

【例】 Berlage, Gai Ingham. *Women in Baseball: The Forgotten History*. Westport: Greenwood, 1994. (最後にピリオドがつく。)

【例】 Lopate, Phillip, ed. *The Art of the Personal Essay: An Anthology from the Classical Era to the Present*. New York: Anchor-Doubleday, 1994.

【例】 Eggins, Suzanne, and Diana Slade. *Analysing Casual Conversation*. London: Cassell, 1997. (複数の著者の場合の表記に注意せよ)

【例】 Hansberry, Lorraine. *A Raisin in the Sun. Black Theater: A Twentieth-Century Collection of the Work of Its Best Playwrights*. Ed. Lindsay Patterson. New York: Dodd, 1971. 221-76.

【例】 Lewis, C. S. "Viewpoints: C. S. Lewis." *Twentieth-Century Interpretations of Sir Gawain and the Green Knight*. Ed. Denton Fox. Englewood Cliffs: Prentice, 1968.

100-01. Rpt. Of "The Anthropological Approach." *English and Medieval Studies Presented to J. R. R. Tolkien on the Occasion of His Seventieth Birthday*. Ed. Norman Davis and C. L. Wrenn. London: Allen, 1962. 219-23.

【例】 Murasaki Shikibu. *The Tale of Genji*. Trans. Edward G. Seidensticker. New York: Knopf, 1976.

(同じ著者、編者による複数の本)

【例】 (洋書の場合--ハイフン三つの後ピリオドを打って、本のタイトル)

Frye, Northrop. *Anatomy of Criticism: Four Essays*. Princeton UP, 1957.

---, ed. *Design for Learning: Reports Submitted to the Joint Committee of the Toronto Board of Education and the University of Toronto*. Toronto: U of Toronto P, 1962.

---. *Double Vision: Language and Meaning in Religion*. Toronto: U of Toronto P, 1991.

(これは Frye の編集になる本。従って、"ed"の後にピリオド)

(注意: 本のタイトルの後のピリオドは斜体にしない。)

【例】 (和書の場合--著者名を繰り返す。)

鷺田清一『老いの空白』(弘文堂、2003)

鷺田清一『顔の現象学--見られることの権利』(講談社、1998)

鷺田清一『「聴く」ことのカ-臨床哲学試論』(TBSブリタニカ、1999)

b) 定期刊行物の論文の場合

- 1 著者名
- 2 論文のタイトル
- 3 定期刊行物のタイトル
- 4 シリーズ番号や名前
- 5 巻数
- 6 発行番号
- 7 刊行年
- 8 ページ

【例】 篠原雅武「純粹空間と群衆の多幸症」『現代思想』33.5(2005): 174-89

【例】 大澤真幸「情報化のなかのジャーナリズム」『環』20(2005冬):108-18

【例】 Albada, Kelly F. "The Public and Private Dialogue about the American Family on Television." *Journal of Communication* 50.4 (2000): 79-110.

【例】 Berman, David. "Marketing Poetry." *Kenyon Review* ns. 22.3-4 (2000): 211-22.

【例】 Jeromack, Paul. "This Once, a David of the Art World Does Goliath a Favor." *New York Times* 13 July 2002, New England ed.: A13+ (これは新聞)

【例】 Kates Robert W. "Population and Consumption: What We Know, What We Need to Know." *Environment* Apr. 2000: 10-19. (これは毎週或いは隔週発行の雑誌)

【例】 Fassett, Deanna L. Rev. Of *When Children Don't Learn: Student Failure and the Culture of Teaching*, by B. M. Franklin, *Communication Education* 50(2001): 83-85. (これは書評)

c) 映画やビデオの場合

- 1 タイトル
- 2 監督
- 3 (出演者など)
- 4 配給元
- 5 封切り年

【例】 *It's a Wonderful Life*. Dir. Frank Capra. Perf. James Stewart, Donna Reed, Lionel Barrymore, and Thomas Mitchell. RKO, 1946.

d) インタビュー

- 1 出版されたもの
- 2 テレビやラジオで放送されたもの
- 3 研究者によっておこなわれたもの

例を用いて、記載の順序等を示す。

【例】 Breslin, Jimmy. Interview with Neal Conan. *Talk of the Nation*. Nat. Public Radio. WBUR, Boston. 26 Mar. 2002.

【例】 Fellini, Federico. "The Long Interview." *Juliet of the Spirits*. Ed. Tullio Kezich. Trans. Howard Greenfield. New York: Ballantine, 1966. 17-64.

【例】 Pei, L. M. Personal interview. 22 July 1993.

【例】 Poussaint, Alvin F. Telephone interview. 10 Dec. 1998.

【例】 Rowling, J. K. E-mail interview. 8-12 May 2002.

e) ウェブ・サイト上の文書の場合

(ア) 一般的には

基本的な記載順序は以下の通り。

- 1 著者名

- 2 文書の名前
- 3 活字刊行物に関する情報
- 4 電子刊行物に関する情報
- 5 アクセスの日と URL (サイトがどの国のものであれ、日付は英語で記す)

【例】 Ross, Don. "Game Theory." 11 Sept. 2001 *Stanford Encyclopedia of Philosophy*. Ed. Edward N. Zalta. Fall 2002 ed. Center for the Study of Language and Information, Stanford U. 1 Oct. 2002 <<http://plato.stanford.edu/entries/game-theory/>>

【例】 "Fresco Painting." *Encyclopaedia Britannica Online*. 2002. Encyclopaedia Britannica. 8 May 2002 <<http://search.eb.com/>>

【例】 Bartleby.com: *Great Books Online*. Ed. Steven van Leeuwen. 2002. 5 May 2002 <<http://www.bartleby.com/>> (これは一つのサイト全体)

【例】 *CNN.com*. 2002. Cable News Network. 15 May 2002 <<http://www.cnn.com/>> (これも一つのサイト全体)

(イ) オンラインの定期刊行物 (学術的なジャーナル、新聞など) に掲載された論文

- 1 著者名
- 2 タイトル (引用符に入れる)
- 3 定期刊行物の名前 (下線)
- 4 巻数、号数、その他の特定する番号
- 5 刊行日
- 6 総ページ数、総段落数、など。
- 7 アクセスの日と URL (サイトがどの国のものであれ、日付は英語で記す)

【例】 Butler, Darrell L., and Martin Sellbom. "Barriers to Adopting Technology for Teaching and Learning." *Educause Quarterly* 25.2 (2002): 22-28. *Educause*. 3 Aug. 2002 <<http://wee.educause.edu/ir/library/pdf/eqm0223.pdf>>

【例】 Chan, Evans. "Postmodernism and Hong Kong Cinema." *Postmodern Culture* 10.3(2000). *Project Muse*. 20 May 2002 <<http://muse.jhu.edu/journals/pmc/v010/10.3chan.html>>

■ 引用文献表のフォーマット

- ・最上段中央に「引用文献表」と記す。
- ・(引用文献の並べ方) まず日本語文献を、次に外国語文献をリストアップし、それぞれ各文献を筆頭著者の姓のアルファベット順にする。
- ・一つの文献情報が複数行に及ぶ場合には、二行目以下をインデントする (全角スペース)

二つ分)。(ワードの場合には、一行目末尾に改行マークを入れると、二行目冒頭からスペースを入れることができる。)

【例】

Brindle, Reginald Smith. "The Search Outwards: The Orient, Jazz, Archaisms." *The New Music: The Avant-Garde since 1945*. New York: Oxford UP, 1975. 133-45.

3 出典の表示

a) 原則

本文における文献引用の際には、文章の流れを損なわないように「出典の表示」をポーズが自然に生じる場所、該当箇所にもっとも近い場所(望ましいのは文末)に置く。「出典の表示」は、該当箇所を含む文・節・句を終結させる句読点に先行する。

【例】 ...という指摘がある(青木 25)。

【例】 ...と考えられる(Taylor and Wilson 145-150)。

【例】 ...に関する議論がある(Jacobson 1-15, Brownlee 25-35, Verducci 45-55)。

【例】 ...に関する議論がある(赤木 1-15、青木 25-35、白木 45-55)。

【例】 In his Autobiography, Benjamin Franklin states that he prepared a list of thirteen virtues (135-37).

【例】 In the late Renaissance, Machiavelli contended that human beings were by nature "ungrateful" and "mutable"(1240), and Montaigne thought them "miserable and puny"(1343).

b) 本文に著者名がある場合：

【例】 青木はこの点をすでに論じている(178-85)。

【例】 Tannen has argued this point (178-85).

【例】 Others, like Jakobson and Waugh (210-15), hold the opposite point of view.

c) 引用文献表に同一著者の複数の文献が挙げられており、論文本文で、その一つを引用する場合：基本形としては、著者の姓(last name)の後に句点(コンマ)をおき、文献の短いタイトルと頁をその後に記す。

【例】 Shakespeare's *King Lear* has been called a "comedy of grotesque"(Frye, *Anatomy* 237).

【例】 For Northrop Frye, one's death is not a unique experience, for "every moment we have lived through we have also died out of into another order"(*Double Vision* 85)

d) 本文に著者名がない場合：

【例】 この点はすでに論じられている（青木 178-85）。

【例】 This point has already been argued (Tannen 178-85).

e) 独立引用文の場合は以下のようにする。

（「直接引用の仕方」の項も参照せよ。）

【例】

John K. Mahon adds a further insight to our understanding of the War of 1812:

Financing the war was very difficult at the time. Baring Brothers, a banking firm of the enemy country, handled routine accounts for the United States overseas, but the firm would take on no loans. The loans were in the end absorbed by wealthy Americans at great hazard--also, as it turned out, at great profit to them. (385)

4 注について

・注は論文末に一括掲載する。

・注の中で文献を引用する際も、論文本文で引用するのと同様に「括弧付き参照」に拠る。

（詳しくは、Gibaldi, *MLA Handbook*, Sixth Edition, 6.5. "Using Notes with Parenthetical Documentation") を参照。

・最上段中央に「注」と記す。

・原稿は、論文の本文、注、引用文献表の順番に配置して提出する。（ワードの注自動作成機能を使う場合、注が自動的に最後に来るので、本文および注のファイルとは別に引用文献表のファイルを作成し提出すること。ページ番号のつけ方は、本文、注、引用文献表の三つを合わせたものに通し番号。例えば、本文と注が 13 ページで終れば、引用文献表は 14 ページから始める。）

・注番号は該当箇所の右肩につける。アラビア数字 (1,2,3...) を使う。

【例】：(和文) ...と考えられる。¹

【例】：(英文) ...in this model.¹

（参考）上ツキ文字の Word での作成方法。変える文字列を選択したうえで、「書式」メニュー→「フォント」→「フォント」タブを選んで、「文字飾りの<上付き>にチェック印を付ける。